

令和5年度 学校関係者評価書 (川南町立川南小学校)

| 項目 | 評価指標 及び 具体的目標 | 自己評価 | | 自己評価結果の考察・分析および改善策等 | 関係者評価 | | 学校関係者評価委員の意見 |
|--------------------------------------|--|------|----|--|-------|----|---|
| | | 項目 | 総合 | | 項目 | 総合 | |
| I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進 | | | | | | | |
| 1 | 家庭教育支援の充実努める。 ②「家庭学習の手引き」を活用した家庭との共通理解・共通実践 | 3 | | ○家庭学習についての保護者評価は78%が肯定的な回答であった。 ○学校保健委員会で精神科医を講師に招き「メディア依存・ゲーム依存」をテーマに学校保健委員会を実施した。(6年生対象) | 4 | | ・ 80%近い保護者の理解が得られているのは、高評価である。 ・ メディア・ゲーム依存については、高学年だけでなく、ゲーム等への関心が高まる低・中学年にも同様にそういったテーマで話を聞いたり学習したりする機会があるとよい。 |
| 2 | 学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) | 4 | 3 | ○ コロナ禍ということもあり昨年以上に地域人材等に協力を得ながら、体験活動を充実させることができた。 ○ 2学期より週1・2回元の「チャレンジタイム」の時間に、地域の方々(主に山茶花ふれあい学園生)に赤ペン先生として協力いただき、地域の方々へ教育への直接的なかわりをもってもらう場を設けることができた。 | 4 | 4 | ・ 地域の方に協力をいただき、積極的に関わりをもってもらう姿勢はよいことだと思う。 ・ 学校と地域との連携の充実に関して、家庭がその関係(学校行事やイベント等)に十分にかかわっていないところがあるのではないかと感じる。 |
| 1 | 読書活動を推進する。 | 4 | | ○ 貸出冊数を掲示することで図書室利用が増え、読書への意欲が高まった。 ○ あけぼの会の読み聞かせが朝だけでなく、学期1回ずつではあったが昼休みに開催してもらい、本への関心・意欲を高めることができた。 | 4 | | ・ 読書の習慣が培われている様子が伺え、取組についても非常によいと思う。 ・ 読書への意欲が高くなる努力が素晴らしいと感じる。 |
| 2 | 確かな学力を育む教育を推進する。 | 3 | | ○ 宮崎大学(竹内准教授)との連携により、リーディングスキルの結果を本校児童の実態との相関関係に着目して分析し、具体的な対応策を講じることができた。特に、授業改善に向け、教材分析や指導の在り方や研究推進のアイデアなども助言いただき、組織的に授業改善を行っていく形で研修を進めていくことができた。 | 3 | | ・ 専門家の力を借りて全職員(先生方)が組織的に授業改善を行っておられ、保護者としても安心できる。 ・ 大学の教授等と連携するなどの努力、その結果を授業改善につなげる姿は素晴らしい。 |
| 3 | 人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ※ いのちを大切にすることを教育に関する項目を入れる。 | 4 | | ○ 学期1回ではあるが1時間の授業として「教育相談」の時間を設定し一人一人の児童とじっくり話し合うことができた。 ○ 不登校や登校しぶりの児童について、その都度ケース会議を開いたり、個別の対応を行ったりするなど、組織として対応することができた。 | 4 | | ・ 教育相談の時間を設定して一人一人の児童と話し合う、また不登校児童対応を組織として対応することもよいことである。 ・ このご時世、特にメンタル面のサポート体制は非常に大切だと思うし、実際に成功事例も挙がっていること、今後もぜひ継続していただきたい。 |
| 4 | 特別支援教育を推進する。 | 2 | 3 | ● 全校集会で「5つの無言」について呼びかけたが、職員の指導が統一されていなかった。 ○ 特別支援教育コーディネーターを中心に担任等と連携し、具体的な支援の在り方を検討・協議・共通実践することができた。 ○ 中学支援に向け、中学校における特別支援教育の状況を保護者に伝達する機会を設け、先を見通すことにより我が子に今後どのような課題を与えることが適切であるかを考える機会を設けた。 | 4 | 4 | ・ 組織が大きくなると職員の間でずれが出るのは多々あります。細かく聞くと、5つのすべてにおいて統一されていなかった訳ではなく、時と場合や学年層によってバラツキがみられたとのことなので、奉仕という意味をもつ排除などは無言でしっかり取り組めたなどのよかった部分を大きく評価すべきだと思う。 ・ 先生方は朝早くから夕方遅くまで頑張っておられるのをよく見かけます。大変だとも思っています。 |
| 5 | 郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 | 4 | | ○ 去年行ったドーナツづくりを今年も実施できないか関係者と協議・検討し、5年生の授業として行うことができた。(ドーナツ販売は、協力者への負担が大きすぎ実施しないこととした。)また、来年度も実施していく予定である。 | 4 | | ・ 地域の様々な業種の方々に、その時々(イベント、学校内外を問わず)に応じて関わっていただき、社会勉強のよい素材を提供していただいていると思う。 ・ ドーナツ作りについては町内の他の小学校も参考にされると聞いた。町おこし協力隊の方々のご協力に感謝したい。 |
| 6 | キャリア教育を推進する。 | 4 | | ○ 地域や外部団体との連携した授業をそれぞれの学年で行うことができていた。特に、今年も6年生を対象とした「よのなか教室」を実施することができ、キャリア教育を充実させることができた。 ○ 各学年で外部講師を招いた授業を実施してきた。そのため、児童評価の「ふるさと川南が好き」の肯定的回答が92%と高い結果を得ている。 | 4 | | ・ 社会勉強の素材を提供くださっているという、そういった温かい大人が多いというイメージ等も、児童評価による「ふるさと川南が好き」という肯定感の高さにつながっていると考える。 |
| 7 | 社会の変化に対応した多様な人材を育む教育を推進する。 ※ ICTの活用推進項目を入れる。 | 3 | | ○ 教師がICTのよさを理解し、デジタル教科書を中心に積極的に活用している。 ○ ICTの研修を定期的に行い、ICTを活用した指導力の向上を目指している。 | 4 | | ・ 授業参観等で積極的にICTを利用し、子どもたちも目を輝かせながら授業を受けている様子に、時代の流れを感じている。 ・ 教室をのぞくたびにタブレットを使っている姿を目にするイメージである。今後も積極的に活用して、子どもたちの未来にも対応する指導を継続していただきたい。 |
| III 教育を支える体制や環境の整備・充実 | | | | | | | |
| 1 | 教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 | 2 | 3 | ● 今年度は、「新しい研修制度」を十分活用したとは言えなかった。来年度は、教職員評価制度とリンクさせ、教職員の資質向上を図ってきたい。 ○ 教職員のタイムマネジメントが向上し、1か月あたりの時間外業務時間45時間以上の教職員の割合が減ってきている。 | 3 | | ・ 昨今のニュース等で教師による問題(不祥事)が峯がるたびに胸を痛めるが、その根本からの対策となると人間としての質の見極めという原点にもなると思う。働き方改革は今後も重要と思われる。 |
| 2 | 安全、安心な教育環境の整備・充実努める。 | 4 | 3 | ○ 火災や不審者侵入を想定した避難訓練を通して、もしもの際の判断力・行動力を高めることができた。 ○ 登下校時の安全、安心のため地域見守り隊の方々に協力をいただいたり、学期1回のPTA立ち番指導にほとんどの家庭に協力してもらったことができた。 | 4 | 4 | ・ 不審者や声掛け事案などが多い難しい時代になったが、見守り隊やPTAの活動などは現状のまま継続し、子どもたちの安全を守ってきたい。 ・ 人災も自然災害もいつ大事が起きてもおかしくないで、日頃からのこうした取組を通して特に下学年への意識づけをお願いしたい。 |
| IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進 | | | | | | | |
| 1 | 学校体育の推進に努める。 | 3 | 3 | ○ 運動場にラダー・バー・フラフープを設置し運動に親しめる環境整備に努めた。また、家庭での運動の機会を増やすことを目的とした動画付きの体力向上通信を発行した。教師の指導力向上に向けた体育実技研修を実施した。 | 4 | 4 | ・ 日常的な運動についてQRコードを活用した広報はとてもよかった。二極化しつつある子どもたちへの対応としてよい方法である。 ・ 体を動かす機会や環境の変化の減少で、体力低下、運動能力の低下を防ぐためにも、非常に取組と思う。 |